

エバラ食品工業株式会社 株式会社エバラ物流

アウトソーシングの活用で EDI の信頼性とスピードを劇的に向上

エバラ食品工業とエバラ物流では、企業間の受発注データ交換をワンストップで提供するインテックのEDIアウトソーシングサービス「EINS/EDI-Hub Nex」を採用し、EDIにおけるデータ転送の信頼性・スピードを大幅に高めています。

PROFILE

社 名：エバラ食品工業株式会社
設 立：1958年5月
本 社：横浜市西区みなとみらい4丁目4番5号
横浜アイマークプレイス14階
従 業 員：503名（2018年3月13日現在）
U R L：<https://www.ebarafoods.com/>

社 名：株式会社エバラ物流
設 立：1990年5月
本 社：横浜市西区みなとみらい4丁目4番5号
横浜アイマークプレイス14階
従 業 員：93名（2018年3月31日現在）
U R L：<http://www.ebabutsu.jp/>

いしさ」と「期待で胸が膨らむ、ワクワクするおいしさ」を通じて、人と人との絆づくりの機会を広げていくという思いが込められています。“たれ”を更に進化させるとともに、お客さまとの“コミュニケーション”をより一層進化させ、「こころ、はずむ、おいしさ。」を、グループ一丸となってお届けしていきます。

そのエバラグループの貨物運送部門として1990（平成2）年に創業されたのがエバラ物流です。全国に広がる物流ネットワークを構築し、共同配送システムによるトータル物流管理によって様々なニーズに的確に応える物流サービスを提供しています。

「こころ、はずむ、おいしさ。」の提供

エバラ食品工業（以下、エバラ食品）は、1958（昭和33）年に横浜で創業した食品メーカーです。ソースやケチャップの製造から事業をスタートさせ、のちに「黄金の味」や「すき焼のたれ」「浅漬けの素」など、ヒット商品を相次いで生み出し、成長・発展を遂げました。2015（平成27）年には、新たに「こころ、はずむ、おいしさ。」の提供というグループ経営理念を打ち出しています。

この理念には、「人を惹きつける、新しいお

EDIシステムの アウトソーシングに踏み切る

エバラ食品と取引する企業は数多く、25年ほど前にEDIをシステム化しています。今日では約70社とファイネット[※]を含むVAN4社を



エバラ食品工業株式会社
管理本部 情報システム室長
勝田 一也氏

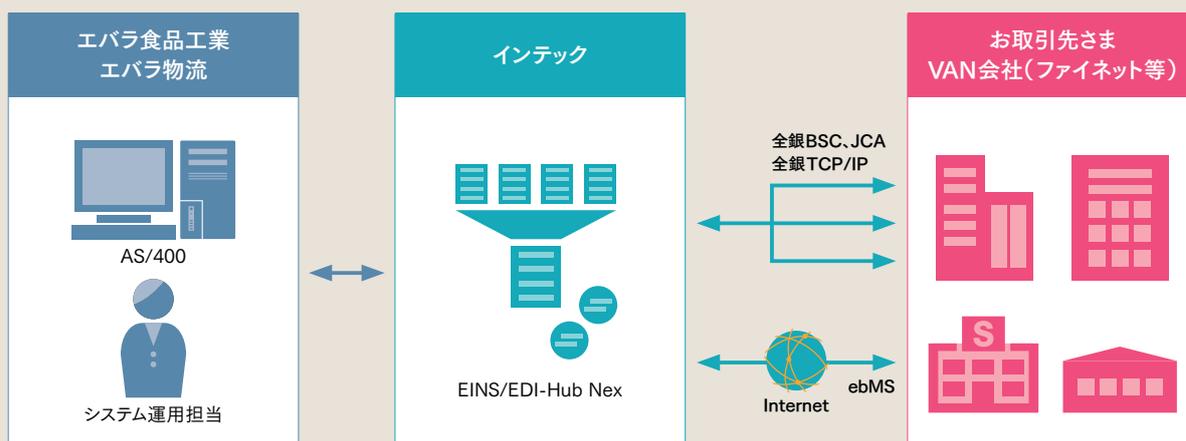


エバラ食品工業株式会社
管理本部 情報システム室
専任課長 中野 森次氏



株式会社エバラ物流
経営管理部 経営管理課長
中村 行哉氏

図：エバラ食品・エバラ物流によるEINS/EDI-Hub Nex活用のイメージ



介してEDIを実施しています。またエバラ物流でも、約20社の取引先と直接データ交換を行う直結型の形態でEDIを実施しています。

エバラ食品とエバラ物流はともに、EDIのシステム基盤として基幹業務用のオフィスコンピュータ（オフコン）「AS/400」を利用していました。ただし、現在はEDI基盤をAS/400から切り出してオープン化、併せてアウトソーシングしています。

食品製造業にとってEDIによる受発注はまさに基幹業務で、システムトラブルによる停止は許されません。社内の情報システム部門でもEDI基盤の保守・運用管理は可能ですが、EDIの安定運用を維持できる体制が永続的に組めるとは限りません。その点を考慮して、アウトソーシングを選択しました。

極めてスムーズな移行作業

インテックは、前出のファイネット創立以来、30年以上にわたりメインベンダーとして同社のシステムを支えてきた実績があります。食品業界にこれだけ多くの実績を持っているベンダーは他にありません。その実績と信頼が、インテックをEDI基盤のアウトソーシング先として採用した決め手になりました。

新システム構築は2015年9月から開始し、2016年1月には新たなEDI環境がエバラ食品で稼働、翌2月にはエバラ物流でも稼働を始めましたが、このシステム移行が非常にスムーズでした。インテックが、我々のお客さまと

のスケジュール調整や設定変更の段取りなどをすべて請け負ってくれたからです。レガシーシステムのオープン化は難しい作業ですが、それをノントラブルで完了させたインテックの力量には本当に驚かされました。

数時間のデータ転送処理が数秒に

EINS/EDI-Hub NexによるEDIの運用開始後、システム移行による現場の混乱もなく、エバラ食品／エバラ物流のEDIは安定して動き続けています。この移行によってEDIによるデータ転送速度が劇的に向上し、受発注の現場から高く評価されています。

例えば、これまで数時間かかっていたデータ転送処理が数秒で終わるようになり、それをエラーと誤解したオペレーターが送信ボタンを2度押してしまうこともあったほどです。

また、EDI基盤のアウトソーシングは情報システム部門にも多大なメリットがありました。従来悩まされていたEDIを支えるモデムなどの通信機器の故障、エラー、調達などの苦勞から解放され、コストの削減にもつながりました。

EINS/EDI-Hub Nexの活用を通じて、インテックはこの道のプロ集団であることを実感できました。EDIに関する心強いパートナーとして、今後はオペレーションも相談したいと思います。

(本記事の内容、登場人物の役職は、2017年3月の取材内容に基づくものです。)